



Title	オンライン授業に参加して
Author(s)	辰巳, 詠子
Citation	
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/81426
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

オンライン授業に参加して

大阪大学 CO デザインセンター 事務

辰巳詠子

コロナ渦において、CO デザインセンターの授業も中止、延期、授業形態の見直し等を余儀なくされ、異例の幕開けとなった 2020 年度春。当センターの授業もスタートから探り探りで進められて行く事となりました。

当初予定されていたフィールドワークや PBL 等、本来ならば私たちスタッフの仕事のメインのはずの活動が中止となり、その代わりに私たちに課せられた業務は、新型コロナウイルス感染対策、ネットワーク環境の整備とそれに関わる知識や情報の収集に一転しました。

一時品薄となった消毒液やペーパータオル等の衛生用品の確保、フェイスシールドや飛沫防止パーテーションの備え、換気促進の為に各教室にサーキュレーターを置き、座席を間引き、三密回避に気を配りました。万が一履修生に感染者が出た場合に感染拡大予防の為に後追いできるよう、自習室には入室管理名簿も準備しました。

どれもこれも 4 月 1 日には頭にぼんやりとあるだけの物だったのが、4 月 7 日の緊急事態宣言の発出を受け、見えないウイルスへの緊迫感の加速と共に大慌てで揃えるに至りました。

そして、もっとも私たちを奔走させたのがこのオンライン授業に関わるものでした。いつもの授業をオンラインに乗せるだけ、そんな単純にはいきません。著作権等の大衆送信にまつわる制約、Web ミーティングシステム（Zoom 等）特有の機能の操作方法、こちらが提供したい授業とその機能のマッチング。授業をサポートする立場ゆえ、先生方から発せられる言葉をキャッチして意思疎通を図るには同じ知識を得る必要がありました。センターのスタッフ数名で模擬 Web 会議を立ち上げ、「資料共有」、「グループセッション」、「通訳機能」、「レコーディング」等の動作を試してみるものの、具体性がない為になかなか呑み込みづらいものでした。そんなタイミングの時に林田先生からオンライン授業の参観のお声がけをいただきました。

実際の授業を体験する事で、Zoom 機能をどのように授業で取り入れているのか、オンラインではどのような授業展開をされているのか、講義室での講義とどのような違いがあるのかをリアルで知る事ができました。

貴重な機会を共有いただきました事に感謝致します。

さて、私は今年度4月より大阪大学 CO デザインセンターに事務の補助として着任をしました。CO デザインセンターがどのような授業を提供しているのかもわからない、オンライン授業なんて想像もできない。そんな中で、有難い事に林田先生より授業参観の機会をいただく事ができました。

その日のゲストスピーカーはフューチャーセッションズの芝池さんでした。ある目的に対し、違う価値観、限られた環境、立場の違いによる凹凸を持つそれぞれの団体（行政、企業、市民（ユーザー）等）を対話でつなぎ、相互を理解する事で共にプロジェクトを進めていくその橋渡し、ファシリテーションをお仕事にされているとの事。私はあくまでも大学スタッフとして、学生の陰でひっそりと客観的にパソコンのスクリーンを眺めているつもりだったのですが、自然と話しの内容に引き込まれていきました。相手のバックグラウンドにある物を理解しつつ、まとめ繋げるプロフェッショナルの芝池さんに、「学生であろうとなかろうと色々な視点で私の話を聞いてくれたらいいですよ」そんな風に心を解かれるような感覚を覚えました。それから先に登壇されたゲストスピーカーさんの話しは、壁を感じる事なく自然と熱中して聞き入る事ができました。視界のすぐ先にはスクリーン、両耳にはイヤホン。外部の刺激を受けない集中しやすいオンラインならではの環境も手助けになったかと思います。スクリーンから発せられる言葉は自分自身に直接語りかけられているような錯覚に陥り、ダイレクトで語り手たちの熱量まで届けてくれました。その熱量は刺激となり、脳内細胞をふつふつと湧き上がらせました。溢れるエネルギーを放出する為に、今にでも走り出したい、そんな衝動にかられました。人から得られるエネルギーは人から人に伝わり、語り手にとっても人に伝える事で増幅し、どんどん強くなっていくのでしょうか。影響力のある人というのはそういうものなのかもしれません。

今回、いろいろな分野において現役で活躍されている方々のお話を聞くことができました。これからの未来にはたくさんの選択肢があり、限りない可能性が広がっている事を学生さん達は感じ取られたのではないのでしょうか。

人生も後半に差し掛かり、ついつい自分に限界を作ってしまう私ですが、まずは自分の日常からやりたい事を精一杯に取り組み、そうする事で自ずと道が開け、いつしか然るべき場所に立っている自分がいるのだろう、そう思わせていただきました。

「今日という日を一生懸命に」この言葉を胸に、締めくくりとさせていただきます。

林田先生、ありがとうございました。お疲れ様でした。